

G-9 我が国の家庭科教育と世界の家庭科教育(第1報)

茨城大教育 村山淑子

目的 国際連合教育科学文化機関(UNESCO)は、国際家政学会と協力して、学校教育における家庭科教育に関する世界的調査を行って報告した。その調査との関連において、我が国の家庭科教育の現状や将来についての見解を明らかにし、世界の家庭科教育と比較し、家庭科教育改善の一つの基礎資料となる為に行なう

方法 エネスコ調査の調査紙の質問項目より選び、1.教育課程の改善、教科課程の内容に関する6項目、2.指導過程、指導方法、指導資料に関する5項目よりなる質問紙を作成、全国国立大学教育学部と家政学部の学部長、附属校校長、家庭科教育担当教官、附属校教官および、家庭科教育学会役員に送付し、回収した。調査時期は昭和48年5月と6月である。

結果 第1報には、1.教育課程の改善、教育課程の内容について、調査対象のうち家庭科教育とその研究にたずさわる者の結果について報告する。有効回収率は86.3%である。

家庭科の重要度につき、現在については、本調査対象は世界調査の結果より重要度を認めるものが多いが、将来については、世界調査の結果のほうが家庭科の重要度は増すと認める数が多い。家庭科の目標については、両者にいく分相違がみられる。教科内容と家庭科の履習に関しては、本調査対象は学校教育の各段階で男子に家庭科の履習を考えているものが多い。新しくとりいれるべき内容として、我が国に特は多きものと世界共通のものがある。本調査対象間では、多くの項目に意見の一致がみられる。